

日刊 動労千葉

86. 7. 15

No. 2294

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三五・六 (公衆)〇四七二(22)七二〇七

労働本部計42回全国大会 遂に分割・民営化賛成、国労解体を宣言

首切り執行人・三塚「祝辞」杉浦「招待」

労働「本部」第四二回全国大会は、十日閉会したが 大会は運輸大臣・三塚、労働大臣・林からの「祝辞・祝電」からはじまり、最終日には「招待」された国鉄総裁・杉浦が登場するなかで ①国鉄改革を推進し活力ある新事業体をつくる、②国労解体闘争を推進し、動労・鉄労・全施労・真国労の四組合の共闘を強化し、新事業体では一企業一組合へ統一する、などとの「運動方針」を採択した。分割・民営化賛成、国労解体「闘争」推進を中曽根・杉浦の先兵となつてやつていくことを宣言した。

三塚・杉浦にひれ伏す「松崎」

大会最終日、来賓登壇した国鉄総裁・杉浦は「鬼の動労と言われた人たちが今、大きな組合(国労)と手を結んだら、と思うと背筋が寒くなる・・・」とあけすけに本音を吐露したのである。事実そうなのだ! 国労・動労があまりにも理不尽な国鉄分割・民営化攻撃に対し本気でたたかうならば確かに勝てるのだ。だからこそ松崎の裏切りの罪は大きく絶対に許すことができるものではない。

さらに杉浦は「臨機応変に、弾力的に対応できる華麗なる転身をした動労に絶大な敬意と称賛を申しあげたい」と革マル分子だけを延命させたいがために平然と労働者の首を売り、組織を売りわたす松崎や動労革マルの「変身」ぶりを高々ともちあげたのだ。

国鉄労働者十万人の首を切ろうという張本人、三塚や杉浦の「連帯のあいさつ」に議長団は「おことばを受けとめ国鉄改革にまい進していく」とやり、退場する杉浦を全員起立、拍手で送り出したという。なんとおぞましい光景ではないか。

「国鉄を悪くした元凶の松崎です」

大会二日目、箱根の大会会場をぬけ出した松崎委員長は、京都の鉄労大会会場

へはせ参じて開口一番「私が国鉄を悪くした元凶の、動労の松崎です。鉄労のみなさんに怪我を負わせたこともある。数数の失礼をおわびする・・・これからは鉄労に学び、鉄労とともに歩みたい」と鉄労組合員の前でやらかした。

労働者の仮面をかぶり、左翼づらをして労働者の背後から襲いかかり暴力をほしいままにしてきた輩が動労革マルだ。革マル分子は「生き残り」をかけ正体をあらわしてきた。かつてのマル生は鉄労現在は革マル。鉄労では国労をつぶすことはできない。そこで革マルしかない。松崎にしかこんな卑劣なこととはできない、ということだ。松崎は国労つぶしをかつてでている。明らかに中曽根・杉浦の弱点、アキレス腱は革マル・松崎だ。松崎を革マルを国鉄職場からたたき出せ。これ以上、松崎にじゅうりんさしてはならない。

そんな中で動労の愛心に戸惑いを覚せる動労関係者も多し。社会党ではなく、しかも多くの仲間を切った国鉄の元管理職を応援する気にはなつてもなれない。〇B仲間も私と同じ思いはせず、私自身は来年中選挙を控えて、喜望支持は不利になるが、と苦しい胸中。

動労・元国鉄管理職の河村勝候補(民前)も支持

河村氏

国労・動労対立もまきこみ

若し動労組合員の名には「参院は社会党、衆院は民社。今回ほど誤り分らない選挙はない。こんな状態が続いたら組合が分裂してしまうのではこの不安も聞かれる。」

動労、ダブルで自民・民社も支持
佐賀県では自民党、山下徳夫(前運輸大臣)も